

VOX POPULI, VOX VO

'87
秋

朝日新聞

天声人語

英文
対照

朝日新聞論説委員室編
株式会社 英文朝日 訳

朝日新聞

天声人語

〈英文対照〉

朝日新聞論説委員室編

87 秋

VOX POPULI, VOX DEI

原書房

天声人語 '87秋の号(第70集)

1987年11月28日 第1刷

定価 980円

著者 朝日新聞論説委員室

訳者 株式会社 英文朝日

発行者 成 瀬 恭

発行所 原 書 房

〒160 東京都新宿区新宿1-25-13

電話・代表03(354)0685 振替・東京5-151594

平河工業社／佐抜製本

ISBN4-562-01917-4

はじめに

「天声人語」は、朝日新聞の、というより、恐らくは日本の活字メディアの中で、最も広く読まれ、かつ最も影響力を持つコラムであろう。各種読者調査の数字もそのことを証明しているし、実際に外部の人たちと話していても「今朝の天声人語に、……とありましたね」といわれることが実に多い。

一九〇四年（明治三十七年）に誕生したという歴史の古さ、第一面の下段真中という絶好の位置、もさることながら、何よりも内容のすばらしさが、名声、人気を維持させてきたのだと思う。森羅万象すべてを俎^た上にのせ、ときに鋭く、ときにユーモラスに論じてゆくこのコラムは、時代を学ぶ上での絶好の教科書といえよう。しかも流れるような名文である。「天声人語」を国語や社会科の教材に使っている中学、高校が数多くあるのも不思議ではない。

「天声人語」が一人の筆者によって毎日書かれているということは、外国人にはちょっと信じられないようだ。欧米にもコラムニストはたくさんいるが、みんな週二、三本がせ

いぜい。しかも政治や経済など、専門分野の決まっている場合がほとんどだ。「天声人語」のような硬軟、内外、どんな話題をもこなす、という超人的オールラウンド・コラムニストは、まず例がないのではないか。

博覧強記、古いものに強くなければならない。と同時に、新しいものへの好奇心が旺盛であることも要求される。花鳥風月を愛し、横文字を恐れず、数字にも明るいことが必要。権力への批判精神と弱者への温かい心。情報収集力と締め切りにまにあわず速い筆力……。筆者は、文筆家として最高の資質に恵まれたものでなければとうていつとまらない。「天声人語」の担当者のことを、われわれは「天人」とよぶが、これには「新聞記者最高の名誉ある地位」といったニュアンスがこめられているように思われる。

現に、歴代の天人、たとえば戦後の荒垣秀雄、入江徳郎、正田桂一郎、深代惇郎といった人たちは、いずれも朝日新聞の歴史に残る名記者、大記者だった。

現在の筆者 辰濃和男君も、若い社会部記者のころから「将来の天人候補」と囑望されていた名文家だが、私が日常そばで仕事ぶりを見ていてとくに頭の下がるのは、材料の仕込みの良心的な点だ。出来るだけナマの声にふれるよう、社内外に取材に出かける。ときには飛行機や船にも乗る。電話も精力的にかける。投書類にもよく目を通す。要するに、

書齋の評論家ではなく、現役の新聞記者なのである。

「天声人語」の語源は「天ニ声アリ、人ヲシテ語ラシム」にある、といわれているが、ラテン語にも同じような VOX POPULI, VOX DEI (庶民の声は神の声) という言葉があり、これはそのまま、朝日イブニングニュースにのる英訳文の表題となっている。

この英訳がまた名文で (翻訳者 藤田茂男氏)、毎日これをテキストにして勉強している人が、日本人にも外国人にも、ずいぶんいるらしい。生きた英語を学ぶ人びとにとって、朝日イブニングニュース編集スタッフによる訳注を入れたこの対訳本は大いに役立つものと確信している。

一九八四年四月

朝日新聞論説主幹

松 山 幸 雄

はじめに

〈一九八七年七月——目次〉

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
甲子園への遠い道	音の囚人	日本型老人福祉の開拓者・本田義信	なぜ、三宅島に？	電柱追放計画	植物たちの会話	『死への準備日記』	オモコワ時代	遅すぎた地価対策	老人医療の現場から	「現代社会」教科書	韓国の静かな喜び
26	24	22	18	16	14	12	10	8	6	4	2

13	黒田先生の自然教育	30
14	地価対策に新首都計画も	32
15	街は熱風地獄	36
16	誰のためのSDI?	38
17	うなぎ伝説	42
18	水源自立	44
19	いま、政治倫理を!	46
20	七月の語録	48
*	石原裕次郎の魅力	29
*	無料になった点訳絵本の郵送料	41

* 朝日新聞掲載の天声人語のうち朝日イブニングニュースの休刊日(日曜)の関係等で英訳文の無いものを和文だけで収載します。

〈一九八七年八月——目次〉

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
水牛家族	星空の街コンテスト	大勢順応の道	カエルの受難	ニアミスの原因追求を!	写楽のなぞ	屋上屋を架す防衛装備	岸信介元首相の三S政策	B勸屋	なすべきことは	生涯の本	メツカ事件の背景	無一物中無尽蔵
80	78	76	74	72	70	68	66	62	60	58	56	54

34	自然の輪廻をたたえた作家 深沢七郎	82
35	薬学外論	84
36	自衛隊機のニアミス続発	86
37	超伝導過熱現象	88
38	涼を呼ぶ街路樹	92
39	迷路遊び	94
40	錯覚の世界	98
41	八月の語録	100
*	全国方言大会	96

〈一九八七年九月——目次〉

42	人さまたまの夏休み	104
43	三宅島民の願い	106
44	金権政治	108
45	伝家の宝刀「地価凍結」	110
46	われさき症候群	112
47	新国劇の芸は消えず	114
48	バイオの力	116
49	お座敷政治	120
50	カミュー・クロード展	122
51	現代の隠し鬼	124
52	天然無価の宝	128
53	轟音公害	130
54	『閉じられた履歴書』	132

55	「ネバー・アゲイン」の七人の若者たち……………	134
56	『平凡』廃刊……………	136
57	九月の語録……………	140
*	福祉あんぜん電話……………	126
*	今こそ言論の自由確保を！……………	139

< Contents — July, 1987 >

1	'Silent Joy' in South Korea	3
2	Students Need Facts	5
3	Caring for the Elderly	7
4	Time to Control Land Prices	9
5	The 'Omo-Kowa' Syndrome	11
6	Chiba's Reporting Spirit	13
7	Plant's Hidden Powers	15
8	Burying Power Lines	17
9	Miyake Air Base	19
10	Death of a Welfare Pioneer	23
11	Prisoners of Noise	25
12	Long Road to Koshien	27
13	Kuroda's School of Nature	31
14	A Dream Capital	33
15	Coping With the Heat	37
16	SDI: A Good Investment?	39
17	The 'Ounagi' Eel	43
18	Wasting Water	45
19	Lockheed and Political Morality	47
20	July Quotes	49

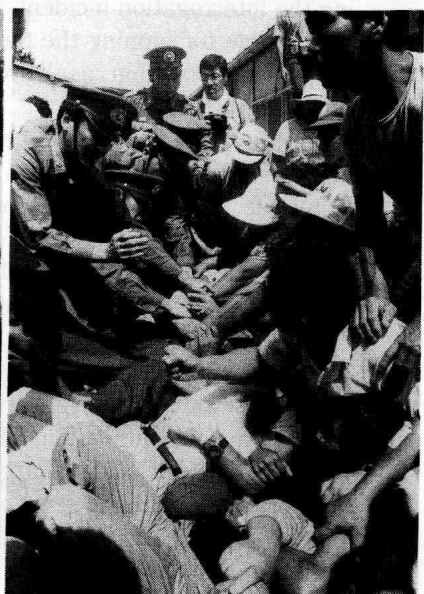
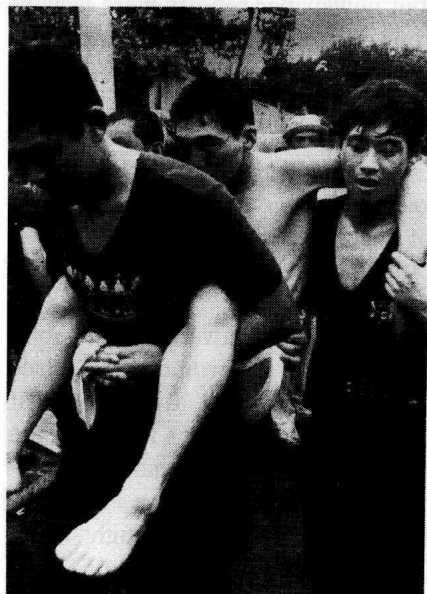
〈 Contents — August, 1987 〉

21	Invisible Treasures	55
22	The Mecca Incident	57
23	Friends for a Lifetime	59
24	'When the Wind Blows'	61
25	A Vulgar Society	63
26	Kishi the 'Opportunist'	67
27	Hey, Big Spender	69
28	The Sharaku Mystery	71
29	Trouble in the Skies	73
30	Diverse Frog Croaks	75
31	Following the General Trend	77
32	How Many Stars Can You See?	79
33	Water Buffalo Family	81
34	Life's Cycles	83
35	The Practical Approach	85
36	Owning Up to Near Misses	87
37	Superconductivity Fever	89
38	Trees Bring Coolness	93
39	The Importance of Mazes	95
40	Illusion Engineering	99
41	August Quotes by Women	101

英 文 訳 注	巻末 2
---------------	------

植物イラスト	(本文)
ポプラ	21
ヤマホタルブクロ	35
ダケカンバ	51
クガイソウ	65
エンジュ	91
スズカケ	97
ヒョウタン	119
ハギ	127

写 真 提 供／朝日新聞社
植物イラスト／滝田 吉 一



1 韓国の静かな喜び

新しい風の中にいる韓国の人たちの表情には「静かな喜び」があると特派員が電話で語っていた。激しく揺れたフィリピンの政権交代劇とはそこが違う。

ソウルのある大学構内の立て看板に、何も書かれていない白紙がはられているという。学生たちは何も書かずに、事態を見守ろうとしているのだろうか。それにしても白いタテカンとはまた随分いきな話ではないか。韓国の人は白い色が好きだという。この白紙は「主張の留保」の意味だろうが、「静かな喜び」を託す気持ちも若干は潜んでいるのではないか。

大統領の直接選挙制や言論の自由の保障を得るまでには、韓国言論人の役割も大きかった。一月、ソウル大学生、朴鍾哲君が捜査当局の拷問で死んだことがわかった時、東亜日報の金重培さんはコラムに書いた。

「天よ地よ人よ、この死を見つめて下さい。この死を最後まで見守って下さい。この死を再

death be killed again. The focus of the state must not be placed on the side of those with power. The focus of the state must be grasped by the people who do not have power.”

It is not clear what kind of restrictions were imposed⁷ on reporting the interrogation incident, but newspaper reports were largely responsible for fanning the flames of protest. Anger at last year's “sexual interrogation case” involving a former coed⁸ served as useful background.

In May, 114 Dong-A Ilbo reporters issued a statement protesting President Chun Doo Hwan's shelving of the constitutional revision issue. The statement bemoaned⁹ the birth of people's distrust of the government as a result of Park's interrogation death and alleged frame jobs. After that, 140 Hankook Ilbo reporters issued a statement demanding freedom of speech.

The people of South Korea, who are acutely aware that economic prosperity and stabilization of livelihood are promoted by a free press that watches the government, have shown a great deal of strength and determination. The special proclamation issued by the ruling Democratic Justice Party said that in order to guarantee freedom of speech, drastic revision of the related structures is necessary. This proclamation signaled victory, a victory brought about by the tenacity¹⁰ of the press and people of South Korea.